

第2回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

日時：令和6年12月4日（水） 参加者：7名（うち市町村から6名）

会場：秋田県生涯学習センター 講堂ほか

生涯学習・社会教育関係者、公民館や市民センター等社会教育施設職員に求められる資質や力量を高めることを目的とし、当初8月28日に開催予定だった第2回研修を実施しました。テーマは「障害者の生涯学習支援～車椅子の視点で街を見て、街を歩こう～」です。

【研修前の事前学習】

研修に参加していただくにあたり、参加者の皆さんには11月12日（火）に当センターで開催された生涯学習・社会教育研究大会で講演された、第24回日本ボッチャ選手権大会出場選手である齊藤 悠人氏の動画を事前視聴していただきました。

実際に車椅子ユーザーである齊藤氏からは、実生活で感じるバリア（社会的障壁）のことやボーダレス（自分とは違う存在や考え方があっても当たり前）の意識をもつことなど、当事者の想いがこもった話があり、視聴された参加者も、自分事意識をもって街歩き体験に取り組むことができたと思います。

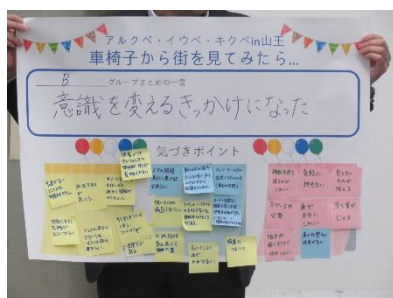
【ワークショップ】



秋田県生涯学習センター社会教育主事の佐藤 隆道がファシリテートして、『車椅子の視点による街歩き体験「アルクベ・イウベ・キクベ in 山王」』を行いました。参加者は2つのグループに分かれ、9つのミッションが書かれたビンゴカードを見ながら、クリアしていく順番等を話し合い、その後、街歩き体験へ出発。センター内ではスロープを自力で上ったり、多目的トイレで車椅子から移動して座ったりする体験をしました。外では車椅子にとって危険な箇所を写真に撮ったり、信号のある横断歩道を渡ったりするなど、様々な体験を通して車椅子ユーザーの視点をつかんでいました。また、コンビニエンスストアに入ったり、喫茶店を利用したりするなど、各グループとも主体的かつ意欲的に活動し、有意義な体験ができたようです。

街歩き終了後は、各グループのメンバーが体験を通して気づいたことを付箋に書き、発表しながらそれぞれの意見を共有しました。どちらのグループでも活発な話し合いがなされ、模造紙にはたくさんの付箋が貼られていました。

その後、車椅子から街を見てみてどうだったか、各グループで「まとめの一言」を考えました。それぞれから「普段見えない壁が見えた」「意識を変えるきっかけになった」との発表があり、参加者にとって気づきの多い貴重な経験であったことがうかがえました。最後に佐藤から、齊藤氏の言葉を借りて『誰かにとって少しでもこころの障壁を和らげるきっかけとなってほしい』と参加者へのメッセージが伝えられ、本研修は締めくくられました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・屋外で車椅子に乗る経験は初めてだったので、車椅子の視点から見る外の世界を、実感をともなって学ぶことができました。
- ・実際に車イスに乗って体験出来たことにより、座学では感じとることの出来ないことが多々あり、非常に勉強になりました。
- ・車いすに乗って障害者の目線になることができ、大変さを実感することができた。この経験をもとに、障害者によりそった講座の企画を考えてみたいと思った。